

# 機能とプロセスオブジェクト概念を中心にした差異解消方法 その2

高原 利生 (所属なし)

## 概要

問題解決, 新機能実現, 理想化という差異解消の全体が, 現実世界の認識, 操作, 変更の内容である. 差異解消は, 目的設定, オブジェクト操作で行われる. 目的設定がオブジェクトの言葉で行われ, プロセスオブジェクトを含む全てのオブジェクト操作が, 三種のオブジェクト変更の論理型毎に形式化して行われるととらえることにより, 差異解消の全体が, 統一したインプット-アウトプット関係によって行える. 理想化に二つの分野がある.

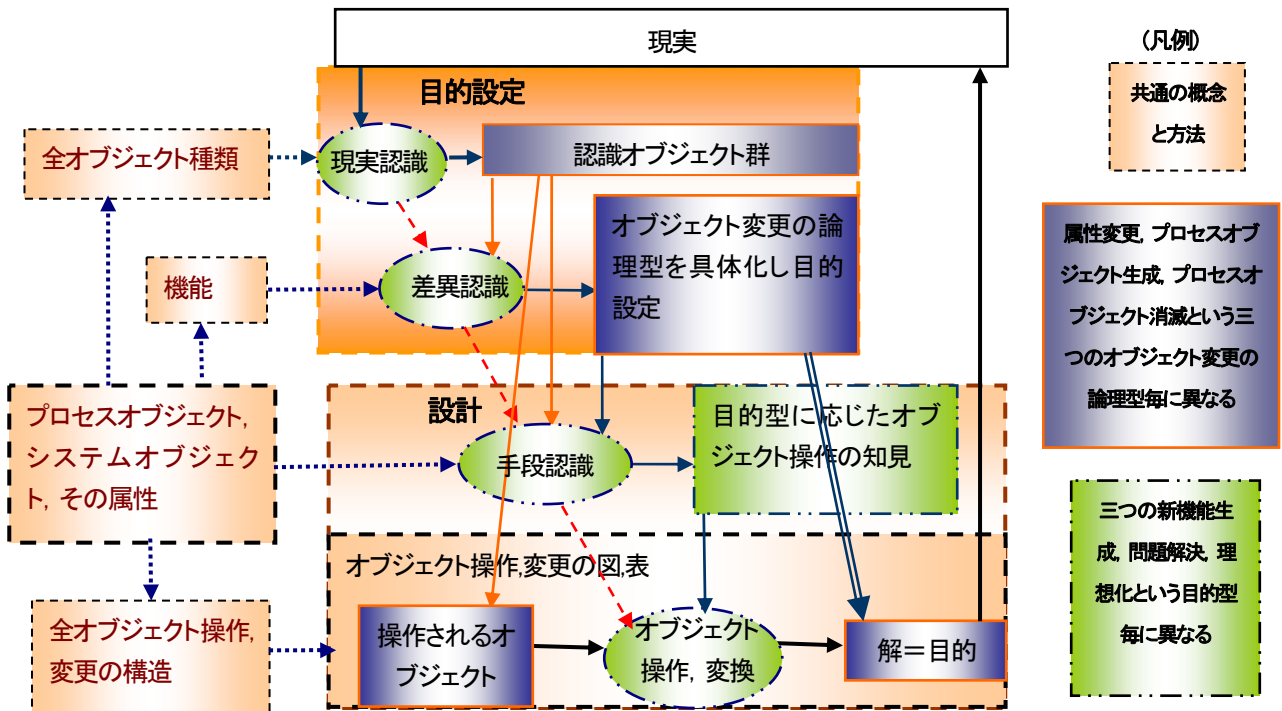
## 内容説明

オブジェクトは, システムオブジェクト(存在)とプロセスオブジェクト(運動)からなり, 認識できる全てを網羅する. プロセスオブジェクトの操作方法を明らかにした.

新しい機能の実現, 問題解決, 理想化の三つが現実世界を操作, 変更する差異解消の目的の型を網羅するもので

ある.

オブジェクトをプロセスオブジェクトを含めて理解し, プロセスオブジェクトの操作方法を明らかにしたことにより, 差異解消におけるオブジェクトの目的設定, オブジェクト操作が統一したインプット, アウトプット関係によって行えることを示した.



\* :問題解決の手段検討においては, TRIZのように問題の原因をなくすか, ASITのように直接問題のない状態を実現するか決定する必要があり, 前者の場合, 目標設定において設定された目的は, 原因をなくす内容に置き換わる